

修学旅行新聞

発行所 財団法人協会
全国修学旅行研究会
〒101 東京都千代田区一
千田錦町1-17-1 (NK第一
ビル) ☎03 (5259) 0631
振替 00160-7-36337

高校の海外修学旅行 平成6年度は95,010人に

文部省の国際交流状況調査から

在籍生徒の5%超す

行先国は 韓国、中国、米国の順
平成6年度に実施された海外への修学旅行に参加した高校生は、平成4年度に比べ大幅に増加した。

文部省では、高等学校における国際交流等の状況について、昭和六十一年度から隔年に行っているが、五回目となる平成六年の調査のまとめによると、海外への修学旅行を行った学校数は三百七十四校、参加生徒数は九万五千

われらの信条
★ われわれは教育を熱愛し 友愛と信義を基盤とする同志的組織のもとに団結する
★ われわれは全修協創設の精神のつとめを公益人として 児童生徒の幸福のために挺身する
★ われわれは修学旅行の改善向上に邁進し 我が国の教育振興に寄与する

リブも六位から四位に上昇した。以下台湾、カナダ、ニュージーランドが二千人を超え、シンガポール、フランス、イギリスがこれに続くが、行先国等の数は前回の二十から十九に減少した。
また、延べ人員は前回より21.9%増加、特に公立校は76%と著しく増加している。
なお、平成6年度の高校生二年生の在籍数は百六十一万人で、海外への修学旅行参加者数は初めて5%を超えたことになる。(3面に関連記事)

平成6年度 高等学校の海外修学旅行実施状況 延べ数 (内は現地校との交流実施校)

行先国等	公立		私立		合計	
	学校数	参加生徒数	学校数	参加生徒数	学校数	参加生徒数
韓国	65(43)	11,309	89(57)	23,401	154(100)	34,710
中国	41(39)	13,641	46(30)	10,648	87(69)	24,289
アメリカ	4(4)	129	72(32)	16,858	76(36)	16,987
オーストラリア	1(1)	80	28(18)	7,826	29(19)	7,906
他15か国	3(3)	92	95(38)	12,688	98(41)	12,780
合計	114(90)	25,251	330(175)	71,421	444(265)	96,672
平成4年度合計	63(53)	14,345	286(173)	64,987	349(226)	79,332

旅行の部では、京都の風景「金閣寺」東間今日子(北海道・恵庭北高) 富士フィルム賞「銀閣」江守直洋(埼玉・中条中) 努力賞「ぼくも私も撮って撮って」六年生(愛知・春日井小)

旅行の部では、京都の風景「金閣寺」東間今日子(北海道・恵庭北高) 富士フィルム賞「銀閣」江守直洋(埼玉・中条中) 努力賞「ぼくも私も撮って撮って」六年生(愛知・春日井小)



風紋
いよいよ春三月。梅の香漂う北野や太宰府の天満宮には、入試に合格した受験生たちがもう一度訪れ、桜の開花が待ち遠しい今日このごろである。新しい学校生活を夢見て、その準備に多忙な日々を送るのには喜ばしいが、免許取りたての高校生の交通事故が頻出しているのは残念だ。関東のある私立高では、三年生五人が今年に入ってから事故死している。関西ではスキー旅行から戻った直後に殺された高校生もいたが、最大の事故は北海道積丹半島のトンネル崩落である。死亡した二十人の中には、小学六年生一人、中学一年生二人、高校二年生五人が含まれていた。第二土曜日で学校は休みだったが、平日ならもっと大勢の通勤通学客が、また夏ならば全国各地からの観光客がバスに乗っていたであろう。現場は「二七〇積丹小樽海岸国道公園」への周遊指定路線である。トンネルで発見された無傷のヘッドホンステレオは、犠牲となった高校生が昨秋修学旅行に行く時に買ったもので、彼の大好きな曲を奏で続けていたという。修学旅行の思い出がこんな形で残るとは、だれも想像できなかったに違いない。将来ある若い命が瞬間のうちに奪われるのは実に残念なことである。三月十日は「東京都平和の日」、昭和二十年、大空襲の日だ。江戸東京博物館、その裏の東京都慰霊堂・復興記念館を訪れて命の大切さを再確認したい。「旅」の生涯学習を続けるために。



大感激//五月の立山は一面の雪 (京都府長岡京市立長岡第四中学校 2面に作文)

主張 修学旅行で校種間の連携を

広報委員 北條直樹

こんな話を聞いた。
一つは、中学校も高校も修学旅行はスキーで楽しかったけれど、せめてどちらか一方は、どこか違う所にも行きたくったという感想もある。
他の一つは、小学校は広島、中学校は長崎、高校は沖縄で、また平和学習かと思っただけという生徒たちの話である。
修学旅行をスキーに変えることは、地域によっては高校でかなり主力となり、中学校でも一部ではあるが、根強いものがある。それは体育学習としてではなく、異論はないが、本来的な修学旅行とは異なるものである。
また、平和あつてこそ修学旅行も成り立ち、もっと大きな言葉は、すべての日常生活は平和の礎の上に築かれて

そして今日、学校は生涯学習のための機関としての役割を担っていることが明らかになっている。修学旅行においても、その発達段階に応じて広い視野に立った内容が設定されていく。とりわけの子供は知見を広げることができ、文化遺産に親しみ、大自然に接することによって、豊かな感性を養うこともでき、生涯にわたる望ましい人間形成に大きく寄与することになる。
話は変わるが、近年の修学旅行研究大会では、中学校入学当時からの目標を立て、具体的な内容と方法については、一・二年の校外学習等で経験を積み重ね、その集大成として修学旅行を位置付けるという取り組みが発表されている。つまり同一学校内では、在学中一回りの修学旅行を重視し、学校の全教育体系を展望しながら、日ごろから着実な取り組みをする学校が増えているのである。
したがって、本稿でもかつて実例を

あけて指摘した(平成五年二月)ように、スキーの学習効果を重んじるならば、中学校二年で済ませただけ低経費でスキー宿泊学習を、三年で本来の修学旅行を行うこともできる。また平和学習では、例えば宮島の文化財、長崎の歴史、沖縄の自然等に重点をおくことも大切ではないかと思う。
そこで一歩踏み込んで、修学旅行について小・中・高の校種間の連携はできないかという問いを提起したい。ひとりの進路はまちまちであり、特に中学校から高校に行く場合ばかりは分散することになるが、少なくとも義務教育段階で密なる連携はできないものか。
新年度になると、新入生の指導の資料とするために、校種間の連絡会もたれる。その際とは限らないが、ちょうどよい機会であり、子供を視点に入れた修学旅行の話題も取り上げ、校種間の具体的な連携への端緒としたものを続けるために。

信頼される旅づくり
心にあざやかな思い出を
ツールの修学旅行。
近畿日本ツールの
運輸大臣登録一般旅行業第20号 (社) 日本旅行業協会会員

楽しい修学旅行を、
より安心
より快適に
「学校旅行総合保険」
をおすすめします。
東京海上火災保険株式会社
本店 東京都千代田区丸の内1-2-1 ☎03-3212-6211(代表)

